

Dance with Heart
The Kikunokai Troupe
we are burning with enthusiasm
in creating national art for the new era.

Chairperson Michiyo Hata
Chief Editor Misuzu Takahashi

日本のおどり

Dancing from the heart

発行：舞踊集団 菊の会
〒161-0031
東京都新宿区西落合2-21-23
TEL 03-5983-6001 (代表)
京都八瀬研修所
〒601-1254
京都市左京区八瀬野瀬町10
TEL 075-712-8701 (代表)
http://www.kikunokai.co.jp/



Photo Hiroshi Mizobuchi

随
舞扇

今年一月、ニューヨークを訪ねた折、現地で出版社を経営する方にお目にかかりました。その時の会話の中で「日本人は世界の中で理解しがたいように思われている」という話題が出たとき、私は「日本人が自分の会社に自分の人生を総て賭ける様に働くのは個性がないのではなくて確立した自分があるからできるのだと思う」と話しました。するとその方は、「そうなんだ。だから私はそういうことをアメリカの人たちに話しているのだけれど、それが分からないんだ」と仰ったのです。彼の話す流暢な日本語とその彼の言葉に、この方は日本人が置き去りにしてきた日本の心を持っている方だと感じ、相手が外国人であることをしぼしぼ忘れるほどでした。

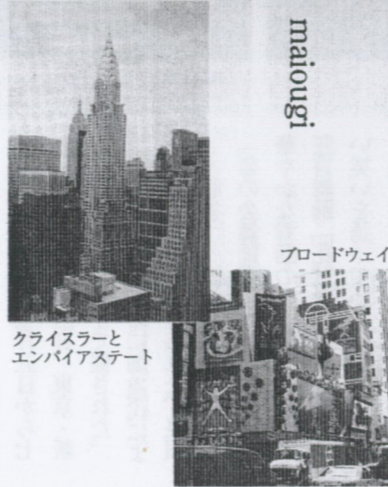


メトロポリタン美術館

ニューヨークと日本の美

舞踊集団 菊の会

代表 畑 道代



mainougi

ブロードウェイ

クライスラーとエンパイアステート

俳句は、日本の省略の美を表す一つの型で、その一字・一言・一句の深さはまことに素晴らしいものです。日本人には、外国には少ない霧や露などを肌で感じる感性と、そこに見え隠れする表現しがたい「美」を、言葉ではなく、互いに通じ合う心で理解し楽しむ豊かな心があるのだと思います。感性溢れる芭蕉の俳句を理解させたいという思いと、日本人の、表現し難い美を理解する豊かな心があることを紹介しようと努力した人たちが居たからこそ、一つの句を一〇〇通りにも訳した本ができたのかもしれないと、そのお話を伺って素直にそう思いました。この出会いを通して、私自身、本質では日本の美を追究していきながら日頃の忙しさに追われ、気が付かないうちに大切な日本の省略の美を生み出す豊かな心を、どこかに置き忘れていたのではないかと思ひ返すことのできた、とても有意義な旅となりました。

INFORMATION

【翠の風に舞うー公演予定】

さつき会 府中の森芸術劇場ふるとホール

5月 5日 (水) 2時半・7時開演 入場料3500円

日本の踊り 戸田市文化会館

5月 8日 (土) 2時・6時半開演 [A席3800円(当日・4300円) B席3000円(3500円)]

5月 9日 (日) 12時・4時半開演 [C席2500円(3000円) D席2000円(2500円)]

民音中国地方公演 『菊の会四季に舞う』

5月19日 (水) 尾道市公会堂 6時半開演

5月20日 (木) 宇部渡辺翁記念会館 6時半開演

5月21日 (金) 米子市公会堂 6時半開演

5月22日 (土) 萩市民会館 6時半開演

京都菊の会八瀬アトリエ公演 『日本のおどり』

入場料4000円(当日4300円) 八瀬研修所 075-712-8701

5月27日 (木) 2時・6時半開演 / 5月28日 (金) 2時・6時半開演

5月29日 (土) 1時・4時半開演 / 5月30日 (日) 1時・4時半開演

菊の会自主公演 『日本のおどり』 入場料4500円(当日4800円)

6月26日 (土) 1時・6時開演 埼玉県志木市民会館パルシティ

7月 2日 (金) 3時・6時半開演 千葉県松戸市文化会館森のホール21

おさらい会 京都菊の会八瀬研修所

7月11日 (日) 1時開演 入場無料

ディナーショー つくば山水亭 0298-55-8181

8月 8日 (日) 昼夜2回公演

菊の会教室発表会 なかのゼロホール

8月 6日 (金) 12時開演 入場無料

南越谷阿波おどり 南越谷駅前 / コミュニティーセンター 入場無料

8月21日 (土) 6時開始

8月22日 (日) 6時開始

《民族芸能に積極的》

日本各地の伝統芸能の保存と人材育成の催しに積極的に取り組むとともに、民俗芸能をモチーフにした舞踊劇を公演。新しい舞踊文化の創造を目指しています。



岩手県「鬼剣舞」

茶房「舞む」

こだわりの珈琲の香りが漂う「舞む」は、皆様の憩いの談話室。手作りのケーキとセットで、豊かな味わいをお楽しみください。TEL 03-5983-6008

【問い合わせ】

学校公演・上記の詳細
広告のご依頼やその他の
お問い合わせについては
03-5983-6001 (代)
菊の会「企画部」まで

編集後記

新企画でスタートした『日本のおどり』第1号。満開の桜のもと、溝縁氏の撮影による道成寺の写真で一面を飾ることができました。畑道代の随想「舞扇」、ミニ対談コーナー「談話室 舞夢」、各分野の方々から様々なお話をいただく「花筏」、公演メンバーの素顔が見える「おふ・たいむ」など、幅広い話題をお届けしたいと思います。ご期待ください。(M)

Editor : Hiroshi・Wada / Satoshi・Hara / Sachiko・Nakayama

Yumiko・Nagai

Design : Nagamitsu・Satake

編集協力：CLIP/HMS

【学校公演】

菊の会では、小・中・高校生のみなさんに日本の伝統的な踊りを知っていただくために、学校公演を行っております。この日本にたくさんの素晴らしい踊りが伝承されていることを、生徒のみなさんの目で見て肌で感じて頂きたいのです。私たちのお届けする日本舞踊は、時代感覚に融合した新しいスピード感とリズム感を持っています。これまでの公演でも、生徒さんたちから「初めてこんな舞台を見ました。大変感動しました」と、熱い感想が寄せられています。お気軽にお声をかけて頂きたいと存じます。



【イベント等への出演】

「大学での公演」「各自治体のまちづくりのイベント」「企業のイベント」「観光協会と旅行会社とのタイアップ企画の際の催し」等に、心に残るワンシーンを御提供いたします。全国各地の主催者のみなさまからは「気持ちの晴れ晴れする心地よい舞踊だった」という声を沢山頂戴しております。

KIKUNOKAI MEMBER'S

・お・ふ・た・い・む・

足袋の思い出

公演メンバー
原 聡

あし・ふくろと書いて「たび」。激しく踊るときも優雅に舞うときも、腰を入れ、床をしつかり踏みしめる重要な役割。だから、足に履く足袋は、華やかな衣装や高価な扇子にくらべて目立たない裏方だが、大事なアイテムである。「着物のポイントには足袋」ともいわれている。それだけに、よりよくフィットするよう、自分の足の型に合わせて選べるのが大切なのだ。畑代表の師匠、初代・尾上菊之丞師は、その日の体調や外気の湿度に合わせて十三種類の足袋を用意しておられたと伺い、驚いたことがある。十代の頃、私は長期入院したことがある。その時、隣のベッドにいた舊職のお爺さんは、いつもバジャマ姿に黒足袋を履き、スリッパではなくセツタを履いて、病院の中庭を散歩していた。入院して間もなく、私が舞台のことや海外公演の話をする、彼も若い頃の事や、高い現場を地下足袋で飛び回った心地よさを、楽しげに聞かせてくれた。お互いに全快を願う生業の話して盛り上がったあと、お爺さんは「一度足袋を履いたらやめられねえよ」とうれしそうに言った。その言葉に「そうですよね」と、私も思わず微笑んだ。十代の舞踊家のたまごだった私と七十過ぎの元爺のお爺さんは、足袋を通じて心が一段と通い合ったのか、私が退院するまでとても親切にしてくれた。あのお爺さんは今もお元気だろうか、そして足袋にセツタで散歩をしておられるだろうか……。



プロフィール
はら さとし
1972年、菊の会創立と同時に10歳で畑道代に師事。旗揚げ公演の舞踊劇「仔鹿よ踊れ」の主演に抜擢され、初舞台を踏む。その後、菊の会の作品および海外公演に出演している。1997年に東京新聞舞踊コンクールに「石橋」で1位に入賞。

溝縁ひろし氏の撮影はじまる

写真集の撮影に、京都在住の著名な写真家・溝縁ひろし氏が参画



京都での撮影風景

昨年秋から撮影に入った「菊の会写真集」は、暮れまでに吉田じん氏による撮影を終了した。この写真集のニューヨークでの出版を目指す中「アメリカの人たちに受け入れられる作品をもっと紹介したい」「菊の会の踊りと日本の美を表現した写真の点数を増やしてほしい」との声が、各方面から相次いで寄せられた。その後、検討を重ねた末、今春の出版予定の延期を決定した。写真集の中に芸術性の高い写真を数多く取り入れたいということから溝縁氏への依頼が実現した。撮影は四月上旬からスタート。氏の被写体に臨む真剣な姿勢から、長く京都を題材にして日本の美を撮り続けてきた情熱が伝わってくる。撮影は快調に進んでいる。

NEWS

「新藤枝音頭」華やかに披露目

静岡県藤枝市の第二十六回藤まつりが、四月二十四日から五月五日まで開催された。オープニングセレモニーで、菊の会代表 畑直代振り付けの「新藤枝音頭」が華やかに披露された。舞踊指導の後、メインストリートでは市民総踊りがぎやかに繰り広げられ、参加した人達は楽しいひとときを堪能していた。

リニユーアル 菊の会ホームページ!

菊の会ホームページがリニユーアルされた。美しい写真と共に、菊の会の公演や活動が毎月新しく紹介され、ファンの皆さんにタイムリーな情報を提供中。
<http://www.kikunokai.co.jp/>

danwashitsu 談話室 舞夢 maimu

ゲスト リンダ シェルトンさん
世界のパフォーマーが集まる「ジョイスシアター」のエクゼクティブディレクター

N.Y.に日本のおどりを



ジョイスシアター

畑 はじめまして。ニューヨークでよく知られた「JOYCE」シアターを訪問できて、大変嬉しく思います。
リンダ 本当に遠くからよくおいでいただきました。ニューヨークにおいでになったのは初めてですか?
畑 今回で三回目です。
リンダ それでは「お帰らない」と申し上げたほうがいいですね。(笑)

畑 ニューヨークには劇場もパレオもたくさんありますが、ニューヨークのダンス人口は多いとお聞きしたのですが。
リンダ ダンスに関する大きな集団はニューヨークに三つあります。それから、モダンバレエのビッグカンパニーは五つです。しかし、その下のパレオ集団になりますと、三〇〇以上あるのではないのでしょうか。こうした現状を見ていただければお分かりになると思いますが、アメリカ人のダンスに対する意識は、かなり高いと言えるでしょう。
畑 ジョイスシアターのお客様はどのような方が主流なのでしょうか。
リンダ ジョイスのお客様は、とてもダンスの好きな方が多いと思います。ここに出演する舞踊団やその公演は、一般のファンの方だけでなく、専門家も注目してくださっています。日本からのパフォーマーでは、宝塚歌劇団もここで公演されましたね。

畑 日本の舞踊と申しますか、私も菊の会の踊りについては、どのように思われますか。
リンダ ビデオとパンフレットで拝見しましたが、とても美しく、大変興味があります。
畑 ありがとうございます。
リンダ ありがとうございます。ジョイスに出演させていただくには、どのような条件があるのでしょうか?
リンダ ジョイスはダンスの世界

全国舞踊コンクールで上位独占、文部大臣賞等獲得



左は中山照子、中央に鶴岡泰重、右が青木有子

葉桜が風にそよぐ四月一日。東京新聞主催の第五六回全国舞踊コンクールが、日比谷公会堂で開催された。菊の会から三名が出場し、今年も上位を独占した。
一位 鶴岡泰重「梅の春」
二位 中山照子「菊」
三位 青木有子「鶯娘」



「梅の春」



「越前竹舞い」



「花冠者」

鼓動が伝わる!! 菊の会アトリエ公演

NEWS

三月の菊の会アトリエ公演「日本のおどり」が、三月五日から七日、十二日から十四日、東京・新宿の菊の会スタジオで催された。今回の公演のために畑直代によって新しく振り付けられた、長唄「吉原雀」、清元「梅の春」、「菊の会舞踊選集」は、観る人を華やかな舞踊の世界にいざない、狂言舞踊「花冠者」では、心地よい笑いを誘っていた。
連日、立ち見が出るほどの盛況で、次のアトリエ公演(九月)に期待が持たれている。



「吉原雀」



「猿」

公演を楽しみにしております



LINDA SHELTONさんと畑代表

では、かなり名前の売れたシアターです。ですが、ご覧になって頂ければ分かりますように、建物も古く、その管理保存も必要ですので、毎年受付を行います。そこで選考させていただきます。
畑 それでは、今年の子定などはどのようなになっているのかお伺いしたいのですが。
リンダ 二〇〇〇年の夏までの公演は、すでに締め切ってしまいま

実現に情熱を傾けています

畑 ことを楽しみにしています。
畑 是非、実現したいと思っております。貴重なお時間をいただき、心からお礼申し上げます。

桐の小箱 kiri no kobako

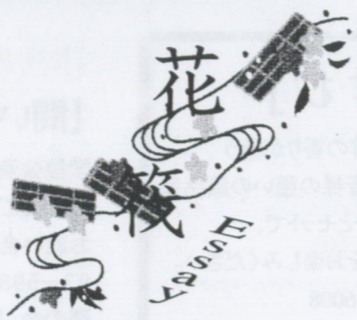
1

菊慈童

「菊慈童」(乱菊枕慈童)という舞踊作品があります。中国の魏の文帝の大臣がレキケン山という深い山の中で一人の少年に出会います。幼くかわいいこの少年は、七百年もの間この山中に住んでいると言います。聞けば、かつて帝に仕えていた時、あやまって帝の枕をま

たぎ、その罪によってここに流されたのだというのです。その時、枕に法華経普門品の偈を賜り、その句を菊の葉に書き、葉にたまつた露を飲んで、今に生き続けていると語るのです。そして、七百年の長寿を帝から賜った喜びを舞って見せるのです。
能楽からの作品ですが、そこには時間と空間を越えたファンタスティックな、舞踊ならではの世界が描かれています。

世界につうじる舞台作り



この五〇年、物的経済中心の時代から、コンピューターや情報通信技術の発達によって、情報・金融経済の時代に入っています。環境変化や競争が激しくなると、人は精神的に強いストレスを受け、心が病んでいきます。人は物を手に



舞踊評論家 うらわまこと

に力をいれるようになりました。しかし、また芸術が多くなるとして身近なもの、生活に密着したものになっているとはいえません。もちろん、観客におもねる必要はありませんし、前衛的、実験的な活動も大切です。

入れたり便利になるだけでは幸せになつたとはいえないのです。二十一世紀は人間中心の時代、心の幸せを大事にする時代にならなければなりません。そこでよく重要なのが、心を癒し豊かにする芸術の役割です。
わが国でもようやく、日本舞踊や歌舞伎など、伝統芸能を主体とした国立劇場と合わせ、バレエやオペラなど、西欧の舞台芸術のための国立劇場が完成。少しづつではありますが、国としても芸術

その一方で、多くの人々に芸術の、たとえば舞踊の面白さ、楽しさを伝え、感動を与えるような舞台づくりを心掛けることも必要ではないのでしょうか。
また、グローバル化が進む現在、芸術も世界を相手にしなければなりません。
そうならば、民族の伝統、特性を守る事が一層重要になり、さらにそれをだれにでも理解され、楽しんでもらえるような形にすることが望まれるのです。